

ダムからの放流量を増やして川をリフレッシュ ～滝沢ダム完成後初のフラッシュ放流～

独立行政法人水資源機構荒川ダム総合管理所の管理する滝沢ダムでは、洪水期に備えて水位を下げており、この水位低下の操作を利用して、次のとおりダム下流の河川環境に配慮した放流（フラッシュ放流）を実施します。

取材にお越しの場合は、事前に問い合わせ先までご連絡ください。また当日の状況写真の提供を希望される場合も、同様にご連絡ください。

●実施日時：平成30年6月22日（金） 10:00～16:00

●目的：ダムからの放流量を一時的に増やし、川の石などに付着した泥や藻類等を剥離させ、河床をリフレッシュすることで、河川に生息する魚などの生物にとって良好な環境への改善を目指す取り組みです。

当日、ダム下流の河川では、ダムの放流量の増加により徐々に水位が上昇しますので、十分注意してください。また、放流量の増加に合わせて警報（放送又はサイレン、サイレン疑似音）を鳴らすとともに河川巡視を行います。

※フラッシュ放流の中止

- ①フラッシュ放流前に降雨等による出水（毎秒約30立方メートル程度）があった場合は、中止します。
- ②地震・洪水等の災害発生時やその他気象条件等により、中止させて頂く場合があります。

平成30年6月18日



独立行政法人 水資源機構
荒川ダム総合管理所

発表記者クラブ
秩父記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人水資源機構 荒川ダム総合管理所 総務課長 おおいわ 大岩
住所：埼玉県秩父市荒川久那4041
電話：0494-23-1431

滝沢ダムにおけるダム下流河川環境に配慮した放流について

1. 目的

フラッシュ放流とは、ダム放流による河川の流水の増加により、ダム下流河川内の攪乱を起こし、石などに付着した泥を流すものです。また、藻類等を剥離させ藻類の再生を促します。これらより、河川をリフレッシュさせ、河川に生息する魚などの生物にとって良好な環境への改善を目的とした取り組みを行います。

また、フラッシュ放流に合わせて、ダム下流河川の状況等について調査し、今後のダム下流河川環境に配慮したダム管理を行うための基礎資料を収集します。

2. フラッシュ放流の概要

①現況

滝沢ダムでは、洪水期が始まる7月1日までに、洪水期に備えて洪水調節の容量を確保するため、洪水貯留準備水位まで貯水位を低下させます。今回のフラッシュ放流は、この水位低下操作の一環として行います。

②実施予定日

- ・日時:平成30年6月22日(金) 8時45分～17時15分
- ・最大放流量:毎秒約30立方メートル
- ・ダムからの放流量を徐々に増やしていき、最大放流量は約3時間継続させます。

「滝沢ダムフラッシュ放流」の実施方法

- ・最大放流量:約30m³/s
- ・最大放流継続時間:約2～4時間

滝沢ダム ステップ放流の経過時間と放流量



③期待される効果

フラッシュ放流を実施する前は、石の表面が泥や藻類等に覆われていますが、フラッシュ放流後は、それらが流され、石の表面が明瞭に現れるなど、河川環境の改善効果が期待されます。

3. ダム下流河川の水位の上昇予測について

今回のフラッシュ放流によって、ダム下流の河川では、次のとおり水位が上昇することが予想されますので、注意してください。なお、フラッシュ放流時は河川利用者の安全確保のため、警報及び河川巡視を行います。河川利用者の方には、河川から出ていただくことをお願いする場合がありますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

【6月22日(金)の午前10時から16時頃】

- ・中津川の太平橋付近で0.4m程度の上昇が予想されます。

4. 警報等の実施について

フラッシュ放流当日は、ダムからの放流量を徐々に増加させるため、安全面に配慮し放流警報(放送、サイレン)を行います。

一般に周知させるため必要な措置は、滝沢ダム地点から玉淀ダム貯水池上流端部地点(樋口警報局)までの区間について行うものとしします。

「警報・巡視を実施」／滝沢ダム～玉淀ダム



○ダムからはきれいな水を流しますが、フラッシュ放流により古い藻や川底の堆積物が掃流されるため、水位上昇中は一時的に川が濁ります。

○フラッシュ放流終了時の水位低下後には、川の濁りは元に戻ります。